

第3期鶴岡市地域コミュニティ推進計画について

市では、安全で安心して暮らせる地域コミュニティを築くため、第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画を策定し、令和3年度から令和7年度までの5年間を計画期間として施策を進めてきました。

今年度は第2期計画の最終年度となることから、これまでの取組みの成果を検証するとともに課題等を整理して、引続き地域コミュニティの活性化を計画的に推進していくため、第3期計画を策定するものです。

1 鶴岡市地域コミュニティ推進期計画の位置づけ

鶴岡市総合計画

【第2次鶴岡市総合計画基本計画】（平成31年3月策定）

【第2次鶴岡市総合計画後期基本計画】（令和6年3月策定）

1 暮らしと防災

環境を保全し、一人ひとりが尊重され、心が通い合い、お互いを見守り支えある、安全で安心して暮らせる地域コミュニティを構築します

(1) 助け合い、支え合う地域コミュニティづくりの推進

ア 住民主体の地域づくりの推進

イ 住民自治組織の強化と地域活動の担い手の確保

<施策の成果指標> 地域ビジョン策定件数 4件 (H30年度) ⇒ 20件 (R10年度)

鶴岡市地域コミュニティ基本方針（総合計画推進のための取組みの方向性を示す）

【鶴岡市地域コミュニティ基本方針（平成25年3月策定）】

持続可能な地域社会を構築するうえで重要な役割を担う地域コミュニティの維持・活性化に向けた、市民、地域、行政の共通指針。

鶴岡市地域コミュニティ推進計画（基本方針の推進）

【第1期鶴岡市地域コミュニティ推進計画（平成28年3月策定）】

【第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画（令和3年3月策定）】

【第3期鶴岡市地域コミュニティ推進計画（令和8年3月策定予定）】

鶴岡市地域コミュニティ基本方針を推進するために、各地域の現状に合わせ、その特性や事業に配慮した地域コミュニティに係る取組みを定めたもの。

2 第3期鶴岡市地域コミュニティ推進計画の策定方針

【第3期鶴岡市地域コミュニティ推進計画】

地域コミュニティ基本方針

令和6年度に、基本理念、目指すコミュニティ像について検討しています。

地域コミュニティ推進計画

令和7年度は、地域課題と市のコミュニティ施策、それに係る具体的取組を見直します。

★地域コミュニティ基本方針と地域コミュニティ推進計画をあわせて第3期鶴岡市地域コミュニティ推進計画とします。

第3期鶴岡市地域コミュニティ推進計画における基本方針（基本理念・目指すコミュニティ像）は、令和6年度の鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会において検討を行いました。

鶴岡市地域コミュニティ推進計画(第3期)策定について

地域コミュニティの維持・活性化を推進するため第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画(令和3年～7年度)を策定し、取組を進めてきた。これまでの取組の成果や課題等を整理し、引き続き地域コミュニティの活性化を計画的に推進していくため、第3期計画(令和8年～12年度)を策定する。

【第2次鶴岡市総合計画後期基本計画 2024～2028】

1 暮らしと防災

環境を保全し、一人ひとりが尊重され、心が通い合い、お互いを見守り支えある、安全で安心して暮らせる地域コミュニティを構築します。



鶴岡市地域コミュニティ基本方針(H25年3月策定)

持続可能な地域社会を構築するうえで重要な役割を担う地域コミュニティの維持・活性化に向けた、市民、地域、行政の共通指針。

地域コミュニティ活性化推進委員会

(現委員任期:令和5年7月～令和7年6月、新委員任期:令和7年7月～令和9年6月)

第3期鶴岡市地域コミュニティ推進計画の策定にあたり、今年度は年4回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会を開催し、計画の内容について協議いただく予定。

第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画(R3年3月策定)

鶴岡市地域コミュニティ基本方針を推進するために、令和7年度までの5年を見据え、各地域の現状に合わせ、その特性や事業に配慮した地域コミュニティに係る取組を定めたもの。

幹事会

(幹事:防災安全課長、廃棄物対策課長、環境政策課長、地域包括ケア推進課長、学校教育課長、社会教育課長、地域振興課長、消防警防課長、市民部長)(事務局:コミュニティ推進課、各庁舎総務企画課)

庁内の関係課で構成する幹事・事務局において、全庁的な取組として計画の内容を協議し、連携して事業を推進していく予定。

○策定作業スケジュール(案)

年度目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
R7年度 計第3期基本方針 策定見直し	第2期推進計画の評価・検証						第3期推進計画案の検討・作成						
	自治組織へふり返しシート配布 →取組みの評価・検証			市の施策の実績等の作成/評価、検証			■第1回委員会 ・委員改選 ・R6取組状況報告		■第2回委員会 ・第3期推進計画見直し案について協議		■第3回委員会 ・第3期推進計画見直し案について協議		■第4回委員会 ・第3期推進計画最終案について協議
											議会に説明	パブリックコメント(3週間)	計画策定

市のコミュニティ施策について(令和6年度の取組み)

地域コミュニティの維持・活性化を推進していくため、「第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画」に基づき、地域特性を活かした住民主体による持続可能な地域づくりを進めた。

(1) 地域コミュニティ活性化の推進

「第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画(R3～R7)」の着実な遂行のため、地域ビジョン策定支援や、地域課題解決に向けた住民主体の体制づくりを推進した。

①地域ビジョン策定及び実践支援

地域の現状を把握し、地域のあるべき姿(目標)を定め、具体的な取組み事項を計画する「地域ビジョン」策定を支援するとともに、策定済地区が地域ビジョンに掲げる目標を達成するために取り組むまちづくり活動を支援した。

○地域ビジョン策定済 17 組織

鶴岡:加茂地区、三瀬地区、小堅地区、由良地区、第六学区

藤島:藤島地区、渡前地区

羽黒:手向地区、泉地区、広瀬地区、羽黒第四地区

楡引:宝谷地区

朝日:朝日東部地区、朝日大泉地区

温海:越沢、福栄地区、宮名

(策定順。令和6年度策定は、渡前地区)

※朝日地域、温海地域においては、平成23～25年度過疎地域集落対策事業により集落ビジョンを策定(朝日地域6組織、温海地域10組織)。

○地域ビジョン策定中及び策定予定地区 6 組織

鶴岡:第二学区、第三学区、湯田川地区

藤島:東栄地区、長沼地区

朝日:朝日中央地区

②鶴岡地域まちづくり未来事業の実施

「地域まちづくり未来基金」の設置目的である「地域社会・コミュニティの振興及び均衡ある発展」を図るため、「人口減少に立ち向かう、真に地域振興に資する」事業を地域まちづくり未来事業として位置づけ実施。鶴岡地域では、広域コミュニティ組織が未来に向け取り組むまちづくり(プロジェクト)を支援し、住みよい、活力あふれる地域コミュニティの構築を推進した。

◇令和 6 年度採択件数…7 件 13,805 千円

➡資料 No. 3「鶴岡地域まちづくり未来事業」実施状況

③ アドバイザー職員制度による地域づくり支援

地域ビジョンの策定や地域課題の解決、事業実施など、地域の要請に応じて職員をアドバイザーとして派遣し、地域の主体的な活動を後押ししている。

◇令和 6 年度アドバイザー職員派遣… 6 地区(11 名)

➡ 資料 No.4「アドバイザー職員制度」

④ ワークショップ等の開催による地域づくり支援

地域課題解決等に向け、地域が主体的に行う取組みに対して、ファシリテーターや外部アドバイザー等を派遣し、地域の実情に応じた住民主体の地域づくりを推進した。

◇令和 6 年度地域づくりワークショップ支援事業… 1 地区

⑤ 生涯学習活動を通じた地域づくりの推進

広域コミュニティ組織へ「広域コミュニティ組織運営・地域づくり交付金」(櫛引・温海地域は単位自治組織に「公民館類似施設運営・活動費補助金」)を交付し、地域が主体的に行う生涯学習活動を支援している。

また、各地域に生涯学習推進員を配置し、広域コミュニティ組織の職員等と連携を図りながら、地域の状況に合わせた効果的な事業展開が図られるよう支援したほか、コミュニティセンター等を活動拠点として実施された生涯学習事業の概要をまとめた「生涯学習事業記録」を作成し、情報共有している。

⑥ 優良事例の共有

推進計画に記載の各種取組みについて、住民自治組織の取組み状況を確認するため、毎年「ふり返しシート」の作成をお願いしている。各住民自治組織から提出された令和 5 年度の取組みについて、調査報告書(概要版・詳細版)としてまとめ、住民自治組織に配布することで課題や取組み事例を共有した。

併せて、地域のコミュニティ活動の工夫や独自の取組みなどを紹介する広報紙「まち活通信」(vol.3, vol.4)を発行・配布し、優れた取組みの共有を行った。

➡ 資料 No.5「まち活通信」

(2) 住民自治組織の活動・運営支援

住民自治組織に対し持続可能な体制整備を促すとともに、活動への支援、身近な地域課題解決に向けた取組みを支援した。

① 広域コミュニティ組織の育成・支援

「広域コミュニティ組織運営・地域づくり交付金」(対象は 33 の広域コミュニティ組織。鶴岡地域 21、藤島地域 5、羽黒地域 4、朝日地域 3)により、地域が主体的に行う生涯学習、福祉、防災、生活環境整備等の総合的な地域活動の他、地域の特色を活かした魅力ある地域づくりや地域課題の解決に向けた取組み等を支援した。

このほか、各種研修会や会議等において市からの情報を提供するなど組織の育成及び機能強化に取り組んだ。

② 単位自治組織の維持と負担軽減に向けた支援

463 の町内会等へ「住民自治組織総合交付金」を交付。各自治組織の特色を活かした交付金の活用を促進するとともに、小規模な町内会や条件不利地域に配慮した内容で交付している。

また、活動拠点の整備については、「公民館類似施設整備費補助金」による支援や各種補助制度等の情報を提供し、単位自治組織の維持、運営を支援している。

◇令和 6 年度公民館類似施設整備費補助金… 6 公民館

(3) 各種研修等の実施について

① 住民自治組織合同研修会「つるおかみらいフォーラム」

期 日 令和 7 年 3 月 7 日(金) 13:30～

会 場 市内 4 会場と自宅等からの受講を併用したハイブリット開催

対 象 鶴岡市内単位住民自治組織(町内会等)代表者、自治公民館関係者、広域コミュニティ組織関係者、市職員

内 容 ○市からのお知らせ…令和 5 年度「ふり返しシート」調査報告

○講演:町内会の運営や活動を昭和から令和へアップデート

講師:合同会社フォーティ R&C 地域活性化・まちづくりコンサルタント 水津陽子氏

「鶴岡地域まちづくり未来事業」実施状況

地域コミュニティの振興及び均衡ある発展を図るため、人口減少に立ち向かう、地域振興に資する事業を“地域まちづくり未来事業”として位置付け、鶴岡地域の広域コミュニティ組織が未来に向け取り組むまちづくり（プロジェクト）を支援し、住みよい活力あふれる地域コミュニティの構築を推進しています。

令和6年度採択事業 7件

1	<p>団体名：加茂地区自治振興会</p> <p>事業名：地域ビジョン実施事業「加茂の大判焼きで子供や若者が集うまちづくり」</p> <p>交付決定額：342,969円</p> <p>事業概要：「住民が安全で安心に暮らせ、若者壮年世代が活躍できる楽しい加茂」、「県内外や、外国から来られる方が目で見て楽しめる、食べて楽しめる、体験して楽しめる、学んで楽しめる加茂」を目指す将来像として地域ビジョンに掲げ、これまで加茂古道に解説・案内看板を設置するなど、加茂地区の魅力の発信を図っている。今年度は「地域になじみがない、愛着がない＝加茂から出ていく」のサイクルを止めるため、「加茂で楽しいことをやる！」の第1弾として大判焼きを若者たちで作る。若者が地域に出るきっかけを作り、加茂地区内・外の子供や若者が加茂に集って楽しめる場所づくりをする。</p> <p>◆R1～R5年度：マップ作成、看板設置、大黒舞継承事業（半纏整備、唄本見台、唄本整備）、日和山遊歩道整備、まち歩きガイド整備事業、加茂古道チラシ、防災マップ作成、街並み案内看板設置</p> <p>◆R6年度：加茂地区独自の大判焼きを作り、イベント等で販売し、関係人口の増加を図る。</p>
	<p>まちあるきイベントで試食</p>
2	<p>団体名：三瀬地区自治会</p> <p>事業名：三瀬地区地域ビジョン推進事業「三瀬イズム推進プロジェクト」</p> <p>交付決定額：442,000円</p> <p>事業概要：「三瀬イズム 住むを楽しむコミュニティ」をキャッチフレーズにした三瀬地区地域ビジョンのうち、「三瀬ファンプロジェクト」「見守り・防災プロジェクト」に取り組み、住民の不安解消、地域特性の向上を目指す。</p> <p>◆R1～R5年度：駅前環境整備、ビジョン住民周知、マイ防災カード整備、三瀬散歩コースの認定事業、見守りの仕組みづくり、ビジョン詳細版作成、地域再発見事業、空き家対策事業（プロジェクトチームづくり）、防災士の育成、「結ネット」を活用した災害時安否確認に向けた取組み、歴史資料の整理、「おらほのノート」自由帳製作</p> <p>◆R6年度：防災研修会の実施、防災ハンドブックの作成、防災キャンプの実施、「おらほのノート」の販売をとおして地域資源のPR</p>
	<p>「コミュニティ×防災」研修会</p>

3 **団体名**：第六学区コミュニティネットワーク

事業名：「住民自ら本当の豊かさを追求しみんなが暮らしやすい持続可能なまちづくり」②

交付決定額：525,000円

事業概要：第六学区内において、特に高齢化率が高く、単身高齢者世帯や空き家が増えている現状等同じ課題を抱えている町内会を集約してモデル地区として設定し、困りごとを気軽に話し合える居場所づくり等課題解決に向けた取組みを展開していくことで、安全、安心に暮らせる地域を目指す。

◆R2～R5年度：住民ニーズの整理、活動内容の検討、組織の設立、拠点施設整備
居場所「はろ～くらぶ」を活用した事業の実施、世代間交流事業の充実

◆R6年度：「はろ～くらぶ」活用事業とSDGsとの関連付けたイベントの実施
子ども食堂開設準備、フードドライブ、フードパントリーの実施



交流居場所として整備された「はろ～くらぶ」



夏祭りなどの季節イベント開催のほか、笹巻づくりなど多彩な事業が活発に行われている。

4 **団体名**：由良自治会

事業名：地域ビジョン実施事業「“ゆら”まるごとインフルエンサー」その3

交付決定額：4,000,000円

事業概要：R4年度に完成した由良地域ビジョン『ゆら“未来予想図”』の実践計画として「情報発信PR」「SNS教室」「マップ・看板設置」「フリーマーケット」開催など掲げている。恵まれた地域資源をだれでも・いつでも・どこからでも情報発信・受信・交換・共有することができる、“ゆら”まるごと「インフルエンサー」をキャッチコピーに住民の皆が自分ごととしてまちづくりに参画し『ゆら“未来予想図”』の実現を目指す。

◆R4～R5年度：LINEよろず相談、集いの場と美味しい食の提供、QRコード付き案内板制作、環境美化準備、フリーマーケット事業、地域ビジョン「ゆら未来予想図」の住民周知

◆R6年度：SNS・LINEよろず相談、由良公式LINEによる災害情報提供、集いの場・美味しい食の提供、体調・安否確認ツールの調査、サインとQRコードの設置、カレンダーの製作、花いっぱい運動、ごみ拾い活動、フリーマーケット・ゆらマルシェ開催



「ゆらマルシェ」の開催

5	団体名： 第三学区コミュニティ協議会
	事業名： SUN楽区まちづくり未来事業
	交付決定額： 2,459,787円
	<p>事業概要：次世代の第三学区コミュニティ協議会や第三学区町内会を支える人材育成をするために、子育て世代を含めた賑わいづくりや多世代の交流づくりの各種事業を展開する。</p> <p>それらの事業を企画・運営する中で、第三学区は、歴史遺産・教育財産・最新技術・人財等の宝庫であることに気づき、自分たちのまち第三学区への誇りを育み、将来の第三学区を支える人材を育てる。</p> <p>◆R5年度：スマホフォトイベント、フォトイベント補完プログラム（ドローンによる空撮）未来創造ミーティングの実施</p> <p>◆R6年度：・SUN楽区を巡る 「チーム対抗ウォークラリー大会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SUN楽区で競う コミセン大ホールで各種目（軽スポーツや方言カルタなど）チーム対抗戦 ・SUN楽区に集う 「文化祭」に子どもが楽しめる体験スペースを設置 ・上記の取組みを企画検討段階から映像で記録し、動画の配信を行う。 ・事業計画策定ミーティング、地域ビジョン策定のための勉強会を実施 <div data-bbox="890 712 1428 1070" data-label="Image"> </div> <p>文化祭は企画の大幅見直しを行い、幅広い世代の多くの方から来場いただいた。致道館中高の吹奏楽部・音楽部の皆さんも演奏を披露。</p>
6	団体名： 小堅地区自治振興会
	事業名： 地域ビジョン実施事業「小堅発サステイナブル・リサイクルプロジェクト」
	交付決定額： 540,000円
	<p>事業概要：地域ビジョンに掲げる将来像「子ども・子育て世代が住みたくなる小堅地区」を目指し、多世代交流施設「こがたランド」の整備、充実を図る。活動に多くの住民を巻き込むことで地域との関わりへの意識の高揚を進め、小堅地区に暮らす理由を創出していく。地域外へもイベントPRする等、地域外への魅力の発信にもつなげる。</p> <p>◆R1～R4年度：シェアハウス整備、「未来創造部」の組織化、地域ビジョン策定、こがたランド整備・安全確保、イベント開催（DIYイベント、遠足の受け入れ、地区シニアサポーターによる「昔の遊び教室」の実施）</p> <p>◆R6年度：こがたランドに「サステイナルーム」を新設、DIYスペース増設、サステイナブルショップの開催、サーキュラーエコノミー「岩百合フリマ」の実施、「サトモリツーリズム」における体験型旅行プランを企画。</p> <div data-bbox="995 1653 1433 1977" data-label="Image"> </div> <p>サステイナルーム・DIYスペース増設中</p>

7	団体名： 湯田川地区自治振興会
	事業名： 湯田川孟宗プロジェクト
	交付決定額： 5,495,000円
	<p>事業概要：地域の資源である竹林について「管理を委託したい人」「管理する人」「イベントに参加したい人」のプロジェクト会員を募り、みんなで環境の維持を図る。竹チップパーを導入し「野焼き処理」を少なくし環境を守るとともに、チップを肥料として活用しコミュニティビジネスにつなげていけないかの試みにチャレンジする。</p> <p>全世代で、竹関連の作業・イベントは楽しいというイメージを持ってもらうため、多くの人が携われる行事を行っていく。</p> <p>◆R6年度：伐採した竹を竹チップパーでチップ化し、チップを土に混ぜることで畑の土壌改良を図る。親子向けに竹に関連したイベントを実施し、竹林や孟宗に親しんでもらう。</p>
	
	竹林間伐作業

【取組みの成果】

- 地域の担い手が活躍できる環境や体制が整い、担い手の確保・育成が図られた。
- 目指す姿の実現に向けた実践事業に取り掛かりやすい環境が整備された。
- 関係人口の増加につながった。
- 歴史文化の活用による郷土愛の醸成及び域外への本市の魅力発信に貢献した。
- 取組みに至っていない地区の機運の醸成が図られた。
- 住民のまちづくり意識が高まり、組織基盤強化、地域課題解決力の向上が図られた。

地域づくり活動を支援する アドバイザー職員制度

■ 制度概要

地域の問題解決に向けた住民主体の地域づくり活動を促進するため、地区の要請に応じて配置された市職員がアドバイス等の支援を行う

■ 支援地区での取組み（令和6年度／抜粋）

< 第三学区 >



第三学区・上郷地区において、
住民主体による地域活動
(ワークショップ、プロジェクト実施) の
運営支援を行っています

< 上郷地区 >



■ 配置状況（令和6年度は6地区へ11名配置）

	令和4年度／15地区	令和5年度／11地区	令和6年度／6地区
地域ビジョン策定 及び取組への助言等	第二学区／藤島、東栄、 長沼、渡前／手向、泉、 広瀬、羽黒第四	藤島、長沼、渡前／ 泉、広瀬、羽黒第四	長沼
鶴岡地域まちづくり未来 事業の取組への助言等	田川、湯野浜	田川、湯野浜	
その他、 地域課題解決の支援等	第三学区／ 丸岡、宝谷、馬渡	第三学区、上郷／ 手向	第三学区、田川、 上郷／手向／下山添

鶴岡市には、町内会や自治会など 463 の単位自治組織と、33 の広域コミュニティ組織(コミュニティ振興会、自治振興会等)があり、地域のまちづくりの活動主体として取り組んでいます。

この「まち活通信」では、地域のコミュニティで取り

組まれている活動の工夫や独自の取組みを紹介しております。

今回は、郷土愛の育成と防災に対する取組み、コミュニティ機能の再構築の取組み、心が通い合う町内会づくり、地域資源を活かした組織づくりについて紹介します。

索引 地域

単位自治組織

楽しいをつなぐの 一助に

下山添地区自治会 区長 蓮池 昇



下山添地区自治会は、旧鶴岡市と接しており、昭和60年から進められた住宅造成事業もあって、櫛引地域で最も世帯数や人口が多い集落(地区)です。

造成当初、元村と団地の交流は、地区の夏祭りでの年1回程度の交流でしたが、団地造成30周年を記念し、レクリエーション大会や芋煮会を行い、多くの方から参加頂きました。しかし世帯の代替わりやコロナの影響もあり、改めて交流や親睦の方法について、現在模索しているところです。一方で、子どものいる子育て世代では、育成会などの活動を通じて、交流が図られています。

郷土に愛着を

地区では、育成会と意見交換を持ち、小学生の頃から郷土に対する愛着心を持つように取り組むたいと、神社の由来など地区の史跡や歴史をウォークラリー形式で学んだり、地区のお祭りで子ども神輿や相撲大会を行ったりしています。

前者は、内容の関係から毎年行うのは難しいですが、後者は天候に左右されることはあっても、毎年、実施しています。地区内を二手に分かれて回る子ども神輿は、大人も大勢集まり、おひねりを渡す人もいて、大変喜ばれています。また、相撲大会は、地区内の相撲愛好会の方のご尽力もあり、横綱柏戸出身の小学校でも相撲大会がなくなる中で、地区内外の児童からの参加があり継続されていることは、誇れるのではないのでしょうか。

安否確認と避難行動を 具体的に考える

広域コミュニティ組織がない櫛引地域でも、近年の激甚化している自然災

害から、避難所を開設しなければならない事態も起こりうるとの考えから、小学校区単位(避難所単位)での地区防災計画作成を令和4年度から取り組んでいます。この広域の地区防災計画と整合性を図った防災計画を策定するため、市アドバイザー職員※1から支援いただきました。

アドバイザー職員からは、迅速な防災活動につながるために、住民の安否情報を庁舎へ連絡して欲しいとの話がありました。隣組ごと区域に近い広場などの一時避難場所では、安否確認を行い、市で指定された一次避難場所では、地区の災害対策本部として情報収集にあたるよう検討しました。防災計画は作って終わりではなく、防災意識を保っていくために定期的な見直しも必要だと思いますので、引き続きより実用性のある計画となるよう検討していくこととしています。

次世代へつなぐ

今後も地域住民のつながりを保ちながら、小さい頃から子ども達に地区事業へ参加してもらい、楽しいと思う記憶が残れば、地域に残る一助になるのではないかと取り組んでいるところです。



地区文化祭で紙飛行機やホバークラフトの作り方を学ぶ

※1 地域の課題解決に向けた住民主体の地域づくり活動を推進するため、地区の要請に応じて配置された市職員が情報提供や助言等の支援を行う。

笑顔でずっと大泉

やれるかやれないか。やりたいの一念から

朝日南部地区自治振興会 事務局長
山口 弘美



朝日南部地区自治振興会は、朝日連峰の懐に抱かれた鶴岡市の最南端に位置するコミュニティです。令和6年3月に「大泉地域ビジョン」が策定されました。平成30年に下田沢自治会で開催した地域の10年後について語り合うワークショップ「おらほのしょ、ろんろんでゆう（活発に話し合うの意）」を皮切りに、実に6年の歳月を要しました。人口が減少しても住み続けられる地域づくりを目指した人口シミュレーションの実施、ワークショップの開催や策定委員会の立ち上げにより協議を重ね、ようやく策定に至ったものです。地域の現状をつまびらかにし、人口を数値化することによって、地域課題をより“自分事”とする良い機会になりました。

まずはやってみることに意義がある

地域ビジョンでは、「笑顔でずっと大泉」をテーマに掲げ、大きく5つの取組みごとに具体的な事業計画を立てました。

今年度は手始めに「コミュニティ機能の再構築」の取組みの中で、従来集落ごとに開催していた夏まつりの一本化に着手することにしました。楽しいことから始めたい。単純な発想ではありますが、果たして人は来るのだろうか…不安を抱えながらも、「まずはやってみることに意義がある」と励まされ、開催に向けて動き出しました。

何から何までが初めて。規模感、各ブースの設定など、祭りそのもののイメージが全くできない。テントは何張り必要か、焼き鳥は一体何本準備すればいいのか…。手探り状態が続く中、5月初旬に役員を中心とした打合せを始め、実働部隊となる実行委員を含めた拡大会議を何度も重ねて、計画を詰めていきました。

資金繰りも難航しました。予算立てについては、当初は自治会からの負担金を想定していましたが、小規模集落からは負担が厳しいとの声上がり、協賛企業を募集する運びとなりました。その結果、11社

から協賛をいただくことができました。

心躍ったプレ会場設営

開催の1週間前にはプレ会場設営を行い、やぐ

らを組み立て音響を設置し、提灯を吊り下げて点灯確認をしました。長らく各集落の倉庫の奥に眠っていた提灯が、久しぶりに日の目を見ることになりました。朝日音頭が耳に流れ、提灯の光が目に入る。五感が刺激され、心躍りました。わたあめやかき氷のブースも初めての経験であったため、参加者主体のセルフコーナーとし、スタッフ自らが負担感なく楽しめるような環境づくりにも努めました。

祭りは地域を活性化する

大泉地区の人口は7月末現在で329人です。8月10日開催の夏まつりに向けて、200人を想定して準備をしましたが、蓋を開ければ予想を上回る250人の来場者!!こんなに大勢の人を見たのは本当に久しぶりでした。盆踊りには100人以上の踊り手が参加し、3重もの人の輪には圧巻でした。協賛企業のおかげで、夏まつりの最後を飾った大抽選会也大いに盛り上がりました。コミセンだより第110号「台風の進路しんぺだ」（毎号タイトルに住民の声を起用）では、「人!人!人の輪!」として報告しました。人が繋がり、人の輪ができる。「祭りは地域を活性化する」まさにそう実感しました。



賑やかさを一層引き立てた盆踊り

「今日(来て)よかった」を目指して

さて、夏まつりの次ですが、地域課題解決と並行して中山間地域の良さを活かす事業提供を計画中です。地域の皆さんの24時間のうちの数時間をコミセン事業に参加していただき、「今日よかった」を感じてもらうことこそが成功のバロメーターだと考えています。目下試行錯誤中ですが。

つながりが消えない 町内会を目指して

砂田町町内会 会長 中村 健一



砂田町は、鶴岡市の北部に位置しており、西に旧国道7号線、東に大西町、北にみどり町、南に淀川町に囲まれた区域で大字新斎部字砂田一部を中心に、大字布目字東通一部が統合した町です。

昭和51年4月に発足し、当初の世帯数は115世帯でした。朝暘第6小学校の創立と同時に、子供育成会、一中会、婦人会、老人クラブ、安全協会支部などの団体も誕生し、公民館が建設される昭和61年7月までは、南岳寺を借用して活動していました。

なり手不足と個人負担軽減のための規約改正

やる気がある人ほど町内会役員になることを重荷に感じる傾向があることから、なり手不足と個人の負担を軽減するために、4年前に町内会規約を改正し、役員任期を2年、最長でも6年としました。また、役員改選時には声かけを行い、部長、副部長に加えてサポーターを選出してもらい、夏祭りなどの町内会行事に協力してもらっています。また、役員選考会に女性を起用し、女性の目線で女性役員を選んでもらい、徐々に役員を担うことへの抵抗感を減らすように努めました。この仕組みを設けたことで女性役員の割合が増えてきました。

地域イベントを通じてのつながりを大切に

地域全体で協力し、様々なイベントを通じて住民のつながりを深めています。夏祭りは、役員会、隣組長で企画し行っていましたが、保護者世代である育成会、中学校会、中学校会 OBOG も会議に参加してもらっています。中学校会を卒業すると一度切れてしまう親同士のつながりも、イベントを通じてつながるようになりました。保護者世代の「やらされる感」を払拭するために企画提案の場を設け、提案したことが採用してもらえると期待感が積極的な参加につながってきています。子どもが楽しめる夏祭りの催事の1つとしてアームレスリング大会を企画提案してもらい、当日は子ども達の奮闘する姿を見て会場が盛り上がりました。また、夏祭りの役割分担

では食券と商品の引き換え、神輿運行中の交通整理、盆踊り指導などを幅広い世代に振り分けたことで住民同士がつながる機会となりました。

		砂田町 町内会
人	口	910人 (住民基本台帳)
加入世帯数		320世帯
発足	足	昭和51年
学区・地区		鶴岡地域第6学区



夏祭りイベントのアームレスリング大会

さらに、「野菜運動会」の名を持つ大運動会も地域イベントの一環として行っています。この運動会は地域住民と一緒に楽しむことを目的とし、子どもから大人まで幅広い世代が参加できる種目が用意されています。参加者は運動会の1種目に参加するだけで鶴岡市指定のもえるごみ袋いっぱいじゃがいも、人参、白菜などが入った参加賞がもらえます。運動会終了後には芋煮会を開催し、参加者同士が交流を深める場となっています。

子育て世代への支援

西部児童館の子育て支援情報は第6学区コミュニティ防災センターにポスター掲示され、町内会長に送付されるだけでしたが、小学生以下の子どもがいる家庭を訪問して、希望者に届けるようにしました。情報提供の仕方を見直したことで、つながりができ、ちょっとした相談や意見交換ができるようになりました。子育て世代やその親世代に対して、また、転入してきた方には最初の段階で、砂田町が住みやすい環境であるということを伝え、地域に対する期待を高めることができるように努めています。

今後も、全世代とキャッチボールを重ね、地域全体でつながり続けながら、町内会活動を活発に進めていきたいと思っています。

祖先に感謝し 未来へつなぐ

細谷集落 区長 庄司 秀郎



細谷集落は羽黒地域の西に位置し、鶴岡の中心市街地にも近いことから各方面で便利のいいところです。稲作を生業としてきた地域で、34世帯の小規模の集落ですが、一人暮らし世帯や空き家なども増え、多くの問題を抱えながら維持しています。

「チーム細谷」と「細谷だだちゃ」

集落では、25年位前から土地改良区の事業の一環で農地・水の環境保全事業に取り組み、「チーム細谷」が発足しました。地域人、他地域で生活をしながら当地域で農業をしている人が構成員となっている集落の1団体です。活動には集落の各団体もメンバーとして加わっており、いわば集落全員が構成員となって運営しています。

鶴岡市内各所に特徴的な在来野菜があることを耳にします。白山だだちゃ、民田なす、温海かぶ、藤沢かぶなど、食の宝庫に恥じない名品ばかりです。実はわが集落にも、「細谷だだちゃ」という枝豆が存在しています。年配の方に伺うとずいぶん前からこの家でも植えていたそうです。それが白山だだちゃのように持続的に発展しなかったのは、稲作に依存していたからではないかと思われまます。かといって種子がまったくなくなったわけでもなく、コツコツ作り続けていた家庭もあり、種子をわけてもらい作付けすることが可能となりました。小面積ですが植えて、管理して、収穫し、試食することができました。食べての感想は「うん。うまい。白山だだちゃにも負けない。」と高い評価でした。味は申し分ない。ただ課題はたくさんありました。発芽率がかなり悪く3割くらいで、種子を多めにキープしないと持続できない。出荷販売するまでに時間を要するなど。「チーム細谷」が主となり生産活動を行い、ここ4年位からようやく販売までこぎつけ、苦労が報われたような気がします。

広瀬小学校の 子ども達が体験

今年は広瀬小学校の3年生が訪れ、収穫を体験し、取った枝豆をみんな

で食べました。子ども達が羽黒にも在来野菜があることを知り、受け継がれていることを学ぶ良い機会になったと思っています。

この「細谷だだちゃ」を通じた子ども達との交流が続き、地域に根づく体験になればと願っています。

農業を通じた地域づくり

実は「細谷だだちゃ」が注目されたのは、山大農学部の江頭先生の目に留まったからでした。私はじめ、地元の多くの人はこのことを知らず、外部から注目されてようやく知ったという次第です。

「チーム細谷」として畑を維持し販売まで作業を行う、個人で栽培したい人は集落に負担にならないようにするなど、集落を基本に考えて続けていければいいのではないかと思います。農業人口がどんどん減り、若い世代が土に触れることもなくパソコンやスマホに頼ることは、さみしい現実だと思うのです。

この自然豊かな土地に生まれ、祖先からの伝統を受け継ぎ、さらに後世へとつなげることが今生きている私達の使命でもあります。しかし、そのまま受け継ぐことが無理なこともあります。少子高齢化、農業の担い手不足と課題は多くありますが、これからもここ細谷で生活し、何かを求め得ようとする人達に、少なからず住みやすい集落でいられるよう手助けをしていこうと思います。



人口：174人 (住民基本台帳)
加入世帯数：34世帯
発足：昭和30年
学区・地区：羽黒地域広瀬地区



「細谷だだちゃ」の苗植体験

編集・発行／鶴岡市市民部コミュニティ推進課

〒997-8601 鶴岡市馬場町 9-25

TEL：0235-35-1203

E-Mail：community@city.tsuruoka.yamagata.jp

藤島庁舎総務企画課 TEL 0235-64-2111

羽黒庁舎総務企画課 TEL 0235-62-2111

榊引庁舎総務企画課 TEL 0235-57-2111

朝日庁舎総務企画課 TEL 0235-53-2113

温海庁舎総務企画課 TEL 0235-43-2111



まち活掲示板